

# 早期栽培米の収穫適期

## [研究のねらい]

水稻早期栽培は西牟婁、東牟婁を中心に広く行われています。早期栽培米の一等米比率は、普通栽培米に比べて低いことが多く、年次変動も大きいです。収穫時期は品質に大きく影響します。そのため、早期栽培米における出穂後の平均気温積算値による玄米品質から見た収穫適期を検討します。

## [研究の成果]

- ① 4月中旬に移植すると出穂期は7月上中旬に、収穫期は8月中旬頃となります（表1）。
- ② 「ハナエチゼン」の収穫適期は出穂後の平均気温積算値で811～970℃（出穂後30～36日）です。収量は積算温度850℃以上では増加が見られなくなります（図1）。
- ③ 「キヌヒカリ」は収穫適期が非常に短い品種で、出穂後の平均気温積算値で895～982℃（出穂後32～36日）です。収量は積算温度930℃以上では増加が見られなくなります（図2）。
- ④ 「コシヒカリ」の収穫適期は出穂後の平均気温積算値で880～986℃（出穂後32～36日）です。収量は積算温度888℃以上では増加が見られなくなります（図3）

## [成果の活用面・留意点]

- ① 収穫適期の積算温度の幅や日数は作期によって変化がありますので、以上の結果をそのまま普通期栽培には応用できません。

品種	試験年次 (年)	移植期 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)
ハナエチゼン	1994	4.13	7. 6	8. 7
	1995	4.13	7.13	8.14
	1996	4.15	7.11	8. 9
キヌヒカリ	1994	4.13	7. 9	8.12
	1995	4.13	7.20	8.23
	1996	4.15	7.16	8.17
コシヒカリ	1994	4.13	7. 8	8. 9
	1995	4.13	7.18	8.19
	1996	4.15	7.14	8.15

注)試験場所:農業試験場(紀の川市貴志川町)

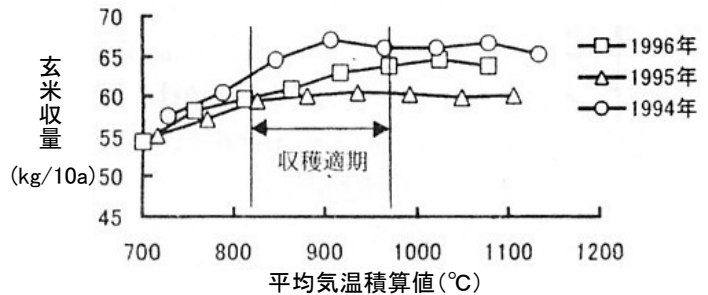


図1 早期栽培ハナエチゼンにおける平均気温積算値と収量の年次間差異

収量適期:玄米が一等米規格内である期間

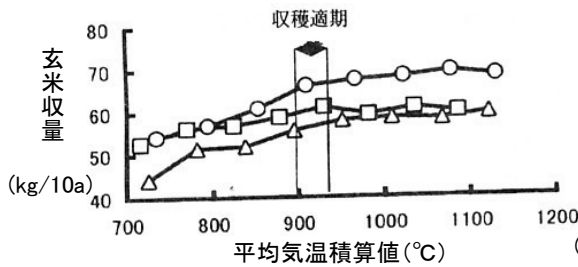


図2 早期栽培キヌヒカリにおける平均気温積算値と収量の年次間差異

収量適期:玄米が一等米規格内である期間

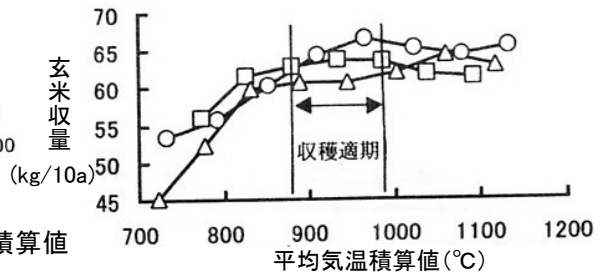


図3 早期栽培コシヒカリにおける平均気温積算値と収量の年次間差異

収量適期:玄米が一等米規格内である期間

実施年度:平成6～8年度

担当者:林恭弘、森下年起、山本浩之